

= 副鼻腔炎(ちくのう症) =

*鼻のしくみ

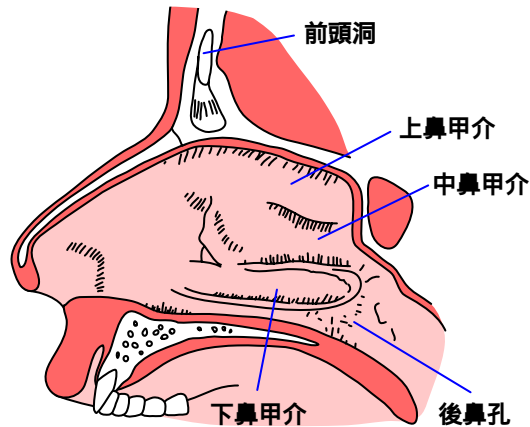
「鼻」というのは、顔の真ん中の盛り上がった部分(外鼻)だけでなく、鼻の内部に広がる鼻腔という穴や、鼻腔周囲の骨の中にある副鼻腔というたくさんの空洞などから構成されています。

《鼻腔》は、壁面が粘膜で覆われ鼻中隔という壁で真ん中から左右に仕切られており鼻甲介という上、中、下三段の深いひだがついていま

鼻から吸い込まれた空気はひだがついた鼻腔内を通る間に、適度の温度と湿度を与えられます。これでのどや気管を刺激しないようにするわけです。また、外気に含まれるゴミやチリ、化学的刺激性などを、鼻腔の粘膜がキャッチしてとりのぞきます。鼻粘膜を湿らせている鼻汁には、細菌やウイルスから身を守る成分も含まれています。

一方肺から出た呼吸は、鼻腔内で熱と水分を出して外に吐き出されます。つまり鼻腔は自動車のラジエーター(放熱器)と空気清浄フィルター

のような働きをしているのです。



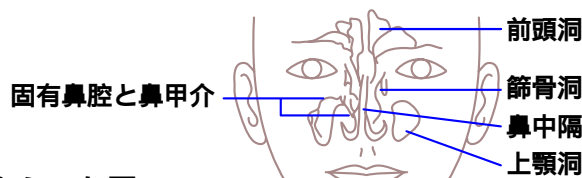
《副鼻腔》は、鼻腔をとりまく顔の

骨の中にある空洞で、上顎洞、前頭

洞、篩骨洞、蝶形骨洞の4種類があります。

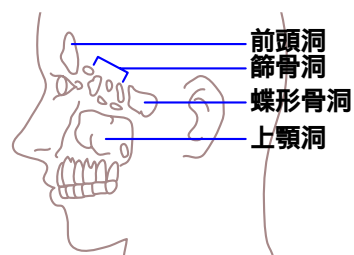
これらの空洞には、鼻腔のように外気の温度や湿度を調節する働きや

声の響きをよくする共鳴作用、顔面に受けた衝撃を吸収する働きがあると考えられています。



(1) 正面からみた図

(2) 側面からみた図



*鼻の病気

鼻の病気には鼻出血、鼻アレルギーなどもあります。急性副鼻腔炎、慢性副鼻腔炎などの副鼻腔の炎症も代表的な鼻の病気の1つです。

急性副鼻腔炎はかぜをひいた時などの急性鼻炎に引き続き発症することが多く、かぜのウイルスや細菌の感染が原因であるといわれています。急性副鼻腔炎の一般的な症状は鼻汁や鼻づまりです。最初はやや水っぽい鼻汁が段々膿のような黄色い鼻汁に変わっていきます。また発熱・熱感や頬の痛み、頭痛などを伴なうこともあります。副鼻腔の中で炎症を起こしやすいのは上顎洞、次いで、篩骨洞です。まれに、前頭洞が炎症を起こすと額や目の間が痛んだり額が重く感じたりします。

慢性副鼻腔炎は、急性副鼻腔炎を繰り返すうちに症状がいつまでも続くようになつたものです。鼻がつまってしまうために嗅覚が低下し、頭痛や注意力の散漫などを起こすこともあります。



鼻汁はかならずしも鼻の前から出るとはかぎらず、のどに下りる

こうひょう

後鼻漏があります。鼻汁も出ないし、鼻をかむこともないのに副鼻腔炎と診断され驚く方がいますが、本来、鼻の中の鼻汁はのどに送られ排出されることが多くののどの奥に濃い鼻汁がへばりついていることがあるのです。そのため、のどに何かあるように感じたり、子供では後鼻漏を飲み込んでしまうことも多く、胃にたくさんの鼻汁が取り込まれ、食欲がなくなることもあります。

*早期受診が大切

昔のように両方の鼻から、汚い膿の混じった黄色い鼻汁をたらした子供を見かけることはなくなりましたが、比較的症狀が強い副鼻腔炎にかかっている方が大幅に減つたとはいえませんが、いつも口を開けているようなら鼻づまりが疑われますし、ねばっこい鼻汁に加えて、鼻づまりのある場合には副鼻腔炎の可能性が高いといえます。

副鼻腔炎は放置していると粘膜が硬く肥厚し、治りにくくなっています。症狀が軽いうちに治療することが大事です。